



4/28

迅速かつ適切な有害鳥獣の捕獲と人的被害の防止  
対象鳥獣捕獲員の辞令を交付

十和田市役所で市鳥獣被害対策実施隊の実施隊員 68 名に対して、対象鳥獣捕獲員の辞令が交付されました。

今回の辞令は、実施隊員の中でも、狩猟、網または罠による捕獲などを実施する隊員を対象に交付されたもので、一般社団法人青森県猟友会十和田市支部小林春雄支部長が代表して、市長から辞令の交付を受けました。小山田市長は「市民の安全を守るためによりしく願います」と話し活躍に期待を寄せました。



小林支部長は「今年は昨年以上にクマが出没すると予想されます」と注意を促しました。



新工場の前で、テープカットを行いました。

5/17

14年ぶりの誘致企業による十和田工場落成式  
国内最大級の木製サッシ工場が完成

昨年1月に青森県、市と「工場立地基本協定」を締結した(株)東京組の中野渡利八郎代表取締役会長が社長を務める木製サッシメーカー「(株)日本の窓」が、市内八斗沢で、建設を進めていた工場の落成式と見学会を行いました。

従業員は27人で、そのうち25人を地元から採用し、今後35人まで雇用拡大を見込んでいます。

地元の杉を活用することによる産業振興とさらなる雇用創出に期待が高まります。

Pick Up 春まつりピックアップ  
太素祭で稲生川上水を祝う

5月3日から4日にかけて、太素塚や官庁街通りの春まつり特設ステージで、式典や祭りのイベントが開催されました。4日の太素塚の式典では、三本木原の開祖・新渡戸傳翁親子三代の偉業に、新渡戸家当主の新渡戸明さんや行政、産業界、町内会など大勢の関係者が敬意を表し、献花しました。

また、官庁街通り特設ステージでは市内小・中・高等学校3校の吹奏楽演奏のほか、琴・和太鼓演奏、神楽、フラダンス、流し踊り、伝統・民俗芸能発表、RABカラオケ選手権などが行われました。

3日の稲生川の歴史をたどる「十和田ウォーク2017」では、大勢の市民が5km、13km、20kmコースの稲生川沿いをウォーキングしました。13km、20kmコースの参加者は、法量地区の稲生川取水口をスタート。川の流れを楽しみながら数時間歩き、ようやくゴールの桜の広場に到着しました。

太素塚式典



4日は人工河川稲生川上水を祝う式典が行われ、新渡戸伝翁親子三代の偉業に関係者が感謝し献花しました。その開拓魂は市民のかがみとなっています。

官庁街通り特設ステージ



吹奏楽演奏など多彩な催しで賑わった官庁街通り春まつり会場

稲生川「十和田ウォーク」



稲生川取水口をスタートし一本木沢ピオトープで折り返し、春まつり会場に到着